

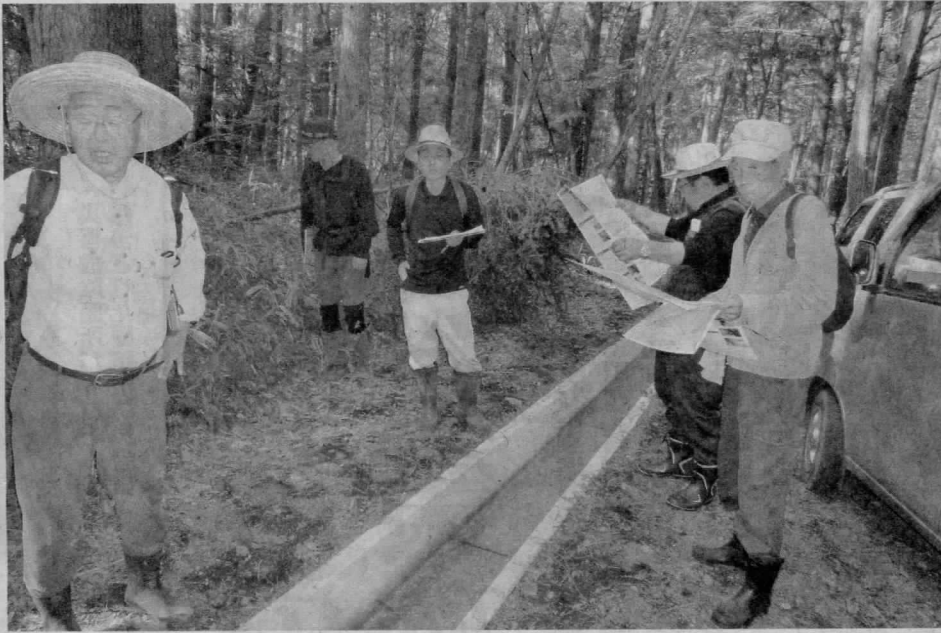
江戸時代に集団移住の歴史

旧「稗之底村」を探訪

ふるさと昔研究会 昔の暮らしし思いはせ

富士見

富士見町瀬沢 ふるさと昔研究会(雨宮一明会
新田の文化財を 長)は15日、江戸時代に住民
保存、継承する住民組織「ふ が集団移住した歴史がある旧



旧稗之底村の村址を訪れた参加者

「稗之底村」を探訪した。会
員ら10人が参加。村からは瀬
沢新田に移り住んだという史
実も残り、参加者は村があっ
たとされる場所を散策し、昔
の人の暮らしし思いはせ
た。



旧稗之底村を探訪した参加者

る区域。町教育委員会によ
ると、かつて村は「境方十八
ヶ村」の一つに数えられた。
古文書には移住の理由とし
て、冬の寒さや農作物の収量
不足(不作)、ニホンオオカミ
の出没などが挙げられてい
る。

稗之底の住民は、乙事や立
沢、瀬沢新田に移住。植松姓
や北原姓の他、五味姓の一部
は稗之底が起源とされる言い
伝えもある。この日の探訪に
は現在、瀬沢新田で暮らす植
松姓の会員も参加。村址に残
された石の祠に「植松」の文
字を発見し「先祖が住んでい
たかもしれない場所で、感慨
深い」と感想を語った。

ふるさと昔研究会は昨年12
月、「時代の変
遷の中で、途切
れてしまうかも
しれない地区の
歴史を再認識
し、後世へ伝え
よう」と発足し
た。今後も地元
にゆかりの場所
や歴史を研究す
る。事務局で大
理神社宮司の名
取人利さんは
「歴史に関心が
ある地元の方に
入会していただ
き、活動の幅を
広げたい」と期
待した。